聖書と説教　　2024 年 9 月 22 日（日）聖霊降臨後第 18 主日

新約聖書 マルコによる福音書 9 章 30 節―37 節（新共同訳）

30 一行はそこを去って、ガリラヤを通って行った。しかし、イエスは人に気
づかれるのを好まれなかった。31 それは弟子たちに、「人の子は、人々の手に
引き渡され、殺される。殺されて三日の後に復活する」と言っておられたから
である。32 弟子たちはこの言葉が分からなかったが、怖くて尋ねられなかった。
33 一行はカファルナウムに来た。家に着いてから、イエスは弟子たちに、
「途中で何を議論していたのか」とお尋ねになった。34 彼らは黙っていた。途
中でだれがいちばん偉いかと議論し合っていたからである。35 イエスが座り、
十二人を呼び寄せて言われた。「いちばん先になりたい者は、すべての人の後
になり、すべての人に仕える者になりなさい。」36 そして、一人の子供の手を
取って彼らの真ん中に立たせ、抱き上げて言われた。37「わたしの名のために
このような子供の一人を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。わた
しを受け入れる者は、わたしではなくて、わたしをお遣わしになった方を受け
入れるのである。」

※第 1 朗読と第 2 朗読は末尾に掲載

説教「全ての人の後に」

ノーベル賞受賞作家であり詩人のヘルマン・ヘッセは、祖父が伝道師にして神学者、両親が共に伝道師という家庭に育ちました。

長男として将来神学者になることを期待されたヘッセは、本人の意志ではなく、マールブロンの修道院にある神学校に入学しましたが、半年で脱走してしまいます。問題行動の多いヘッセに、両親は知り合いの牧師に頼んで悪魔祓いを受けさせたものの、効果はなかったなどのエピソードもあるようです。

幼い頃から「詩人になりたい」と願っていたヘッセは、のちに職を転々としながら執筆活動に没頭します。現代文明や当時のナチス政権に対する批判、平和主義を主張した作品を書いたため、戦時中のドイツで著作を禁止されたこともありました。

そんなヘッセが、このように綴った詩があります。「私たち哀れな人間は／善いことも悪いこともできる。動物であると同時に神々なのだ！」

ヘッセの言う通り、善いことも悪いこともできるのが人間です。そして、善いことをしている人間が地位や名誉を得ているわけではなく、むしろその逆であることも多いのではないでしょうか。

ヘッセはまた、同じ詩の中でこうも綴っています。「だが、私たちは希望する。私たちの胸の中には／愛の奇跡の／燃える予感が生きている」。

本日の福音書は、イエスがご自分の十字架の受難を弟子たちに再び予告する、「二回目の受難予告」と呼ばれる場面から始まります。イエスは、弟子たちに三回 受難予告をしましたが、その二回目ということです。

イエスが弟子たちに言った「人の子は、人々の手に引き渡され、殺される。殺されて三日の後に復活する」という言葉の意味が弟子たちには分かりませんでしたが、怖くて尋ねられません。

弟子たちが「分からなかった」のは、「そうあってほしくない」ということもあるでしょう。それは、自分たちがイエスに望んでいる救い主の姿ではないからです。弟子たちには、イエスに、地上の王として君臨する栄光のメシアであって欲しいという願いがありました。ここには、弟子たちがイエスの歩む道を理解し、それを共にすることの困難さが示されています。

イエスは、カファルナウムに来る途中で何を議論していたのかと弟子たちに尋ねます。その問いに弟子たちは黙っていました。黙っていたのは、イエスにあまり知られたくない内容だったからでしょう。イエスの二回目の十字架の受難予告を聞かされながらも、彼らが議論していたのは「だれがいちばん偉いか」ということでした。

その心の奥には、この世的な成功、立身出世を望む気持ちがあったのでしょう。偉大な奇跡を起こし、人々から崇められ君臨する救い主イエスの弟子であることによって、この世における地位・名誉を得ることを考えていたのかもしれません。

そんな弟子たちに、イエスはこう言います。

「いちばん先になりたい者は、すべての人の後になり、すべての人に仕える者になりなさい」（マルコ 9:35）。

この言葉は、神は、地位や成功という人間的な価値基準によって人を測ったり判断したりすることはないということを示しています。いちばん先の者はすべての人に仕える最後の者となる。最後の者とは、「人の列の一番後ろに並んでいるような無力な者」ということでしょう。すなわち、神の国においていちばん先になるためには、すべての人に謙虚に仕える者にならねばならないということです。

そしてイエスは、子供の一人を抱き上げ、こう言いました。「わたしの名のためにこのような子供の一人を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである」（マルコ 9:37）。

子供は、当時の社会では「可愛い」というイメージよりも、社会の中で最底辺

にいる、最も無力で小さな者を象徴していました。イエスの時代、一人前の人間として評価されるためには律法を学び、律法を忠実に守ることが必要でした。子供は、律法についての知識もなく、律法を守る力もない「無能力者」であるから、子供であることには何の価値もないとされていました。

イエスが話していた言語であるアラム語で「子供」という言葉は、「しもべ」という意味も持っています。イエスは抱き上げた子供を自分と同一視することで、まさにご自身を最も低く、最も小さい、すべての人の僕とし、「真の偉大さとは何か」についての教えを語ります。

イエスの教えは、この世の価値観とは対照的です。捨てることによって、獲得する。謙遜によって、栄光を得る。それはこの世の栄光ではなく、神の国における不滅の栄光です。（第一コリント 9:25）

イエスは、信仰者の歩むべき道を示しました。信仰生活とは、単に神を信じるだけでなく、困窮している者、弱い立場にある者を助ける意識を持って日々を歩んでいくということです。

本日の福音書の最後のイエスの言葉には、「受け入れる」という言葉が繰り返されます（マルコ 9:37）。

「受け入れる」とは何でしょうか。

「受け入れる」とは、ひとつには「両手・両腕を広げる」ということなのだと思います。

「両手・両腕を広げる」のは、「受け入れる」ことの象徴です。

体操などの中にも、そのような動作がありますが、それは心と体に良い影響を及ぼすでしょう。

日々の生活の中で、両手・両腕を広げる動作を、意識していつも行ってみてください。

そして、心の中でも、両手・両腕を広げているイメージをし続けてみてください。

イエスはこう言いました。
「わたしの名のためにこのような子供の一人を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。わたしを受け入れる者は、わたしではなく、わたしをお遣わしになった方を受け入れるのである」（マルコ 9:37）。

私たちは、両手・両腕を開き、神の恵み・神の愛・神の祝福に、感謝と喜びの内に身を委ねましょう。

受け入れるとは、ゆるすことでもあります。

私たちは、自分自身をゆるし、人をゆるしながら、どんな時も希望を持ち、共に歩んで行きましょう。

憐れみ深く慈愛に満ちた主イエス・キリストの御名を通して祈ります。

＊＊＊＊＊＊ 説教ここまで ＊＊＊＊＊＊

以下、本日に関連する聖書箇所（第 1 朗読と第 2 朗読）です。

旧約聖書 エレミヤ書 11 章 18 節―20 節（新共同訳）

18 主が知らせてくださったので／わたしは知った。彼らが何をしているのか見
せてくださった。19 わたしは、飼いならされた小羊が／屠り場に引かれて行く
ように、何も知らなかった。彼らはわたしに対して悪だくみをしていた。「木
をその実の盛りに滅ぼし／生ける者の地から絶とう。彼の名が再び口にされる
ことはない。」20 万軍の主よ／人のはらわたと心を究め／正義をもって裁かれる
主よ。わたしに見させてください／あなたが彼らに復讐されるのを。わたしは
訴えをあなたに打ち明け／お任せします。

新約聖書 ヤコブの手紙 3 章 13 節―4 章 3 節と 4 章 7 節―8 節 a（新共同訳）

13 あなたがたの中で、知恵があり分別があるのはだれか。その人は、知恵に
ふさわしい柔和な行いを、立派な生き方によって示しなさい。14 しかし、あな
たがたは、内心ねたみ深く利己的であるなら、自慢したり、真理に逆らって
うそをついたりしてはなりません。15 そのような知恵は、上から出たものでは
なく、地上のもの、この世のもの、悪魔から出たものです。16 ねたみや利己心
のあるところには、混乱やあらゆる悪い行いがあるからです。17 上から出た知
恵は、何よりもまず、純真で、更に、温和で、優しく、従順なものです。憐
れみと良い実に満ちています。偏見はなく、偽善的でもありません。18 義の実
は、平和を実現する人たちによって、平和のうちに蒔かれるのです。
1 何が原因で、あなたがたの間に戦いや争いが起こるのですか。あなたがた
自身の内部で争い合う欲望が、その原因ではありませんか。2 あなたがたは、
欲しても得られず、人を殺します。また、熱望しても手に入れることができ
ず、争ったり戦ったりします。得られないのは、願い求めないからで、3 願い
求めても、与えられないのは、自分の楽しみのために使おうと、間違った動
機で願い求めるからです。
7 だから、神に服従し、悪魔に反抗しなさい。そうすれば、悪魔はあなたが
たから逃げて行きます。8 神に近づきなさい。

教会讃美歌　190 番「主のみ名によりて」1,2 節、308 番「冠ささげ」1,2,5 節、382 番「ここは神の」1,2,3 節、250 番「つくられしものよ」1,2,3 節、320 番「しあわせなことよ」1,2,4 節。